



# ぐんぐん

出雲教育事務所通信  
(学校教育スタッフ 発行)  
第7号

## 「家庭学習」, 「全国学力・学習状況調査の活用」等の取組紹介

本県において、家庭学習を充実させ、学習習慣を確立することは喫緊の課題となっています。そこで、今年度の学力育成訪問指導では、各市町教育委員会における学力育成策の記載形式を尊重しつつ「しまねの学力育成推進プラン(鳥根県教育委員会 平成28年4月改訂)」に基づき、「①授業の質の向上 ②家庭学習の充実 ③学校マネジメントの強化」という3側面からの記載をお願いしており、そのことに焦点化した協議をさせていただきました。

また、ご存知のように、次期学習指導要領においても、その総則の「第1章第1の2の(1)確かな学力」には、児童・生徒に生きる力を育むために「家庭との連携を図りながら、児童・生徒の学習習慣が確立するように配慮すること」と記されました。「小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題である(引用:小学校学習指導要領解説 総則編 p25)」とも述べられており、異校種間や家庭との連携を図りながら、学習課題を課したり、学習計画の立て方や学び方を指導したりすることは、一人一人の児童・生徒の生活づくりや、自己管理能力の育成にもつながる指導であると言えます。

そこで本号では、学力育成に係る学校訪問指導を通して得た家庭学習の取組例を紹介します。

### 1 家庭学習の取組

※ は資料があります。(小・中)は小学校、中学校を表します。

#### 教員、児童生徒、保護者等が共通認識を持てる取組

#### ◇中学校区、校内で統一した手引き

- ・小学校から中学校までの9年間を見据えた手引きを作成する。(小・中)※
- ・学年差を踏まえ学年ごとに自主学習で取り組む内容の例を示し、学年部で共通理解を図る。(小)※

#### ◇家庭の協力

- ・「学習開始時刻」や「おうちの人のサイン」、「コメント」を記入するように保護者に依頼する。提出用のカードにその欄をつくる。(小)※

#### 授業改善と家庭学習をつなぐ取組

#### ◇授業につながる自主学習

- ・授業の振り返りを自主学習ノートに書くことで、授業との関連をもたせる。分からないことなども記入するようにし、個別指導、全体指導にいかす。(小・中)
- ・小テストの範囲、月例の課題テストの範囲を早めに知らせ、生徒が見通しをもって自主学習に取り組めるようにする。(中)



#### 児童生徒の意欲・自主性を伸ばす取組

#### ◇紹介・表彰

- ・自主学習ノートの評価をして、どんな点が良いのかコメントを付けて良い取組を廊下等に掲示する。(小・中)
- ・継続的に取り組んでいた児童や、内容の優れた取組をした児童を表彰する。(小)

#### ◇生徒会との連携

- ・生徒会と連携して自主学習ノートの良い事例を各教室に掲示する。(中)
- ・生徒会が自主学習ノートの提出率を調べて、取組への意欲につなげる。(中)

#### ◇提出回数・内容の焦点化

- ・自主学習ノートの提出日をしぼり、児童は自信のあるページを開いて提出する。教師は肯定的な評価をして自己肯定感をもたせる。(小)
- ・自主学習は英語と数学の二教科に絞り、一日一ページを課す。(中)

#### 複数で児童生徒を把握できる取組

#### ◇チーム学校

- ・自主学習ノートの点検を専科担当や管理職等が行う。(小・中)

## 2 全国学力・学習状況調査問題の活用

「B 主に『活用』に関わる問題」を「活用 B 問題」と表記

### ◇単元の終わりや定期テストでの活用

- ・定期テストに活用 B 問題をもとにした問題を活用する。(中)
- ・高校入試問題の傾向に対応し、定期テストで論理的思考を問う問題を増やす。(中)
- ・単元の終わりに計画的・継続的に過去の調査問題を学習のまとめとして活用する。(小・中)

### ◇朝学習での活用

- ・6年生児童を対象に、朝学習の時間を使って計画的に問題を活用する。(小)

### ◇その他

- ・週に一度、全校学習会を設定し、県の学習プリント配信システムなどを利用して活用題に取り組みせる。(小)

## 3 その他

### ◇補充・発展学習等の時間の設定

- ・週に一度、時間割を工夫して放課後 40 分の時間を作り、個別指導や補充問題に取り組む。(小)
- ・バスの待ち時間を利用して「学びの時間」を設定する。教員を配置して質問できるようにしたり、子供同士で教え合いをしたりする。(小・中)
- ・部活動に行く前の 20 分を使って、家庭学習を提出できなかった生徒は学校で取り組む。(中)

### ◇算数での反転学習の取組

- ・家で本時の予習をさせ、授業では発表から始めるという学習スタイルを一部の学年で取り入れる。そのことにより説明する時間を確保し、学び合う授業をめざす。(小)

### ◇体幹を鍛える運動・ストレッチ

- ・授業中の姿勢の徹底に向け、授業前のストレッチ等を導入する。(小)

### ◇読書の充実

- ・金曜日に図書館から本を借りて帰るようにし、家庭読書に力を入れる。(小)



## 4 他県の取組

### ◇単元末の問題づくり(算数)

- ・単元のまとめに、その単元で学んだことを使って日常生活との関連を踏まえた問題づくりを行う。  
(山梨県 小)

### ◇活用 B 問題を各学年で実施

- ・全国学力・学習状況調査結果を分析し、正答率の低かった問題の内容に関わる単元を全学年で確認する。その該当する単元において、活用 B 問題をその学年に応じた問い方に直し、実施する。  
(石川県 中)

学力育成に係る学校訪問指導では、学力育成に関する貴重な情報を数多くいただきました。どの学校も「授業改善と一体となった家庭学習」の実現に向けて、工夫した取組がなされており、先生方の熱意と努力を感じました。紙面の関係で簡単な紹介となりましたが、参考になりそうなものがあれば、2学期から取り入れてみてはいかがでしょうか。